東村山市民新聞

198号
定期購読料
一部 150円

議員全員にタブレットPCを配布？

経費はなんと年間600万円以上！
通信費まで公費で出せと言い出す議員まで…
不要な高額システムを導入へ

東村山市議会では、「ペーパーレス化」「ICT化」を理由に、議員専用のシステムを入れ、タブレットもセットで全員に配布するという計画を、反対する議員達を無視して強行に進めようとしている。

このシステムとは、行政の資料や議会の議案資料を議員専用のシステムにいれて閲覧しやすくするというのが業者の宣伝文句。

しかも、このICTシステムの導入だけではなく、議員全員に一台のタブレットPCまでセットになった高額なパッケージ契約をしようとしているのだ。もちろん、システムだけの導入も可能なのだが、公明党が急先鋒となり、何としても、この高額なパッケージ契約を進めようと必死になっている。

現在、システムなどなくても、各自のPCで充分に調査研究活動ができており、朝木議員や共産党会派の議員、立憲民主党・藤田議員ら7人の議員はこのシステムは必要ないとして、導入に反対している。

予算の金額を口止め

そして、11月8日に開催された、議員全員協議会では、議長がこのタブレットPC付きシステムに係る金額（予算）については、年間600万円以上かかるという説明をした後、市民にこれを公表しないよう、「口止め」。

財政が不安定なこの時期に、不要不急のシステムを導入し、議員にタブレットPCを配り、毎年600万円以上の予算を計上すべきか、しっかりと納税者市民の意見を聞くべきだが、逆に密室でコソコソと話を進めようというのだから呆れる。コロナ禍で市民が困窮し、市の財政も先が見えない状況だが、導入推進派の議員たちはそんなことはどこ吹く風。

そもそも、職員に質問原稿を書いてもらっているような議員達が、高額なシステムを入れる必要があるとは到底思えない。

また、ペーパーレス化で経費削減との理由も、議員への議案書や資料で年間600万円もの資料費がかかっているとは思えず、また、高額なシステムなど入れなくても、市（議会）のHPにはほぼ全ての情報が掲載されているので、紙資料がいらない議員は申し出れば良いだけのこと。現在も連絡事項はメールで各議員に配信されている。

これらの議論は全員協議会という「会議録のない」ウラ会議で行われている。会議録が残らないため、平気で市民への「口止め」までしているのだ。

自宅での私的使用も自由に

また、議員に配布されたタブレットPCは議員各自が持ち歩くため、当然、自宅で私的に利用することもできる。タブレットPC配布に賛成の議員の中には、「タブレットを配布してくれれば、家族が使える」などと公然と言っている議員もいる。

市役所から持ち出して私的目的に自由に使用できるものを、つまり、公的仕様と私的使用が按分できないものを税金で購入することは通常では考えられないが、公明党はこれをゴリ押しの方針のようだ。

この「高額ICTパッケージ契約」計画は、公明党が主導し、公明党の小間使いの佐藤まさたか議員や公明党に逆らえない自民党の議員などで進められているが、今後の成り行きが注目される。

インサイドリポート

質問原稿を職員に丸投げする議員！

二元代表制、とは名ばかりで、市長の取り巻きと化している与党議員たち。

10月7日付の東京新聞に大きく掲載された東村山市議会の「議員が質問原稿を職員に丸投げ」という記事は市民から大きな反響がありました。記事の内容は、東村山市議会の一部の与党議員は、議会での質問原稿を答弁者である職員に丸投げして書かせているというもの。

実際に、現在議長をしている土方桂議員はじめ、複数の自民党議員は議会における自分の質問原稿を職員に書かせていたという証拠があります。そしてこのような職員への質問原稿丸投げは、今に始まったことではありません。

「質問原稿作成 市職員に丸投げ」
東村山市議の発言波紋
元職員「頼まれれば断れない」

こうした「質問原稿丸投げ」は、議員に質問通告や原稿を作成する能力が無いということもありますが、答弁する行政側にとっても、自分たちで質問原稿を作成し、議員に読んでもらうだけの議会なら、答弁に苦労することもないので安心できるという事情もあるのです。このような与党議員と行政側の癒着により、議会は本来の役割である、行政（市長）のチェック機能を全く果たしません。まさに市民を欺く八百長議会です。

このことを私が9月議会本会議で指摘し（これまでも指摘してきましたが）、立憲民主党の藤田議員も「その物証を見せてもらった」と発言をしたところ、土方議長と村山淳子副議長は、後日、私と藤田議員を別々に呼び出し、私に対しては、本当に証拠をもっているかどうかの探りを入れた上、新人議員の藤田議員に対して、「調査をして、その結果（質問を書いた）職員が懲戒免職になったら、あなたは責任を取れるのか」など、もみ消しを図りたかったのか、的外れな脅しをかけるという悪質さです。

こんな議員たちがいくら「議会基本条例」を叫んでも、「市民を欺くための看板」に過ぎません。

朝木直子

追　悼

本紙編集長であり、1995年から2019年まで、東村山市議会議員として活動した矢野ほづみ元市議が、昨年12月1日に都内病院にて逝去いたしました。

私と矢野さんが共に活動するようになったのは、1995年9月1日に、母である朝木明代議員が殺害されるという事件が起きてからです。母は草の根市議として、矢野さんと共に、市の不正を追及し、弱者のために走り回り、また、創価学会批判をしながら、当時は怖がって誰もやらなかった創価学会脱会者の救済活動をしていました。

事件の後は、凄まじい嫌がらせや妨害がありましたが、それらをはねのけ、母の殺害事件の真相究明活動を続けながら、市議会議員として、庶民の立場を貫き、また徹底して弱者の立場に立ち、権力と闘いつづけた「草の根市議」としての矢野さんの活動は、東村山市の歴史に残るものです。

1995年9月1日の朝木明代殺害事件から、2021年12月1日まで、絶え間なく闘いつづけた矢野さんに、同志として、お疲れ様でした、そしてありがとうございました、と声をかけました。

母を殺害した犯人の逮捕を見届けられなかったことは無念であったと思います。私が引き継き、真相究明活動を続け、また、市議会議員としても、矢野さんの政治哲学を忘れずに、受け継いで参ります。

いつか、事件が真相究明されたという報告を、今は亡き矢野さんと私の両親にしなければならないと思っております。

これまで、支えていただき、励ましてくださった、多くの方々に、心から感謝いたします。

東村山市議会議員　朝木直子

朝木直子VOICE

朝木直子略歴
▽諏訪町出身、化成小・二中、都立高武蔵・慶應大卒／会社勤務／高齢者団体役員／母・明代議員殺害事件後、遺志を継ぐ／地元FM局で番組作り／1999年から市議、現在6期目（草の根市民クラブ）

▶私は議員報酬のお手盛り値上げに反対し、任期中のお手盛り値上げ分および市職員より多いボーナス減額提案分は受け取り拒否しています。

2021年12月時点での議員報酬返上額
5,870,410円

超暇人たちの会議？

議会に設置された「議会改革特別委員会」では、現在政務活動費の使途についてを議題にし、議員が視察旅行に行った際の「食事代」（現在は朝食1500円、夕食3000円）の支出上限を「減額するかどうか」で、延々何時間も議論していますが、未だに結論は出ていません。私は、食事代は視察に行っても行かなくても発生するものなので、当然自費で支払うべきだと主張しています。そもそも、政務活動費の支出基準については、当事者であり、利害関係人である議員達が集まって議論しているので、客観性はなく、いかにこの「食事代」が必要か、自分たちに都合の良い理屈ばかり並べ、呆れるばかりです。これが「改革委員会」だというのですが、暇人たちの会議にしか思えません。

私は視察を含む活動費は全て議員報酬から支出し、「政務活動費」は議員になってから一円も使ったことはありません。

朝木直子ウェブサイト

先達・矢野穂積さんのご逝去を悼む

ジャーナリスト・乙骨正生

本紙の編集長で、元東村山市議会議員の矢野穂積さんが逝去されたことで、私は昨年、尊敬する先達を3人も失うこととなりました。

一人目は、「日本の一番長い日」の執筆者として知られる、近現代史の泰斗・半藤一利氏（1月逝去）。二人目は、新自由主義や市場原理主義を厳しく批判していた経済評論家の内橋克人氏（9月逝去）。そして三人目が矢野さんです。

半藤氏は、「デモクラシー」が破壊された後に「ファシズム」が到来し、悲惨な戦争へと突き進んだ昭和史を学ぶことの重要性を、「大事なことはすべて昭和史に書いてある」と強調。内橋氏は、「ファシズム」を招いた日本人の政治意識の根底にある「頂点同調主義」と「異質排除」に強い警鐘を鳴らし、為政者に唯々諾々と従属するのではなく、自立してものを考える必要性を主張していました。

そして矢野さんは、自民党と公明党（創価学会）が野合し、議会制民主主義を形骸化することで、地方自治の本旨が阻害され、市民の知る権利も侵害されることをいち早く見抜き、故朝木明代東村山市議とともに、1990年代初頭から東村山市議会を「ムラ議会」と批判し、市民不在の自公野合の東村山市議会と、その議会と行政の癒着を厳しく糾弾し続けていました。

まさに「真理は細部に宿る」です。今日、自民党と公明党（創価学会）の野合が国政にまで拡大し、立憲主義と議会制民主主義が危殆に瀕している事実を目の当たりにするとき、東村山市議会をその前兆と見抜いた矢野さんと故朝木明代市議の慧眼には敬服するばかりです。

そして自公連立政権成立の一因ともいわれる故朝木明代市議の不可解な他殺事件を経て、創価学会・公明党の熾烈な誹謗中傷に晒されながらも、議会制民主主義と住民自治、そして市民の知る権利や福祉を守るための政治活動に挺身した矢野さんの勇気ある姿勢には頭が下がるばかりです。

「カルト・ファシズム」（平野貞夫元参院議員）が台頭する今日の日本の政治状況下に、矢野さんを失ったことは誠に残念ですが、朝木直子東村山市議をはじめとする心ある人々と、矢野さんの遺志を継いでいきたいと念願しています。

東村山を変える超党派議員連盟による議会報告会のお知らせ

日時　2月11日(祝)　14時半〜

場所　東村山駅西口サンパルネコンベンションホール

★ 裁判判決で他殺がはっきりした朝木明代議員殺害事件。犯人逮捕への情報提供をお願いします。